

自宅 で被災したら

避難するときの判断基準は次の5つ。

<p>1 避難勧告などの避難情報が出た</p>	<p>2 津波や土砂災害などの危険が迫っている</p>	<p>3 火災やガス漏れ、家屋倒壊の危険性がある</p>	<p>4 ライフラインが止まり、備蓄品がなくて生活できない</p>	<p>5 自宅にとどまるのが不安</p>
-------------------------	-----------------------------	------------------------------	-----------------------------------	----------------------

下記の「いつ、どこへ避難する?」をご確認いただいた上で、なるべく自宅待機を推奨します。

優先すべきは、命と心です

地震後、揺れがおさまってきたら、まずは自宅を出て、避難すべきか冷静に判断します。どこへ避難するかなど、日頃から家族と話しあっておきましょう。

外出先 で被災したら

帰宅せず、その場にとどまる判断基準は次の5つ。

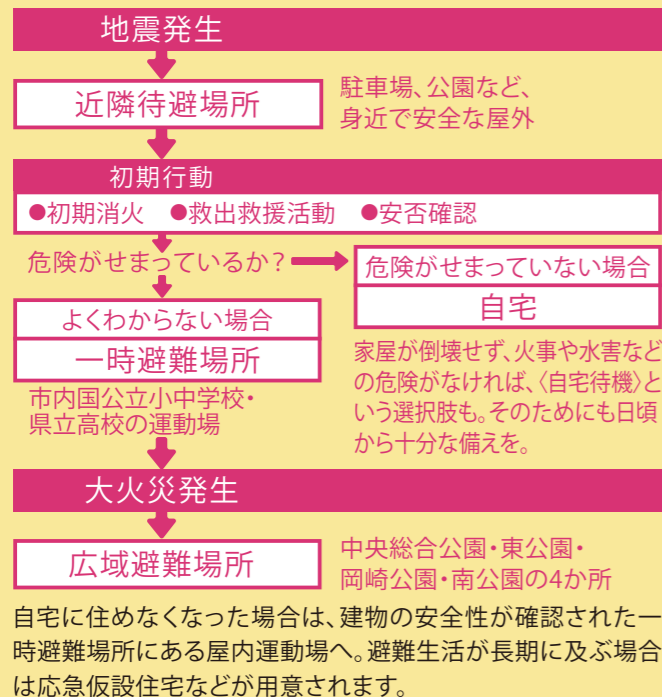
<p>1 自宅まで距離が遠く(10km以上)、徒歩による帰宅が困難</p>	<p>2 移動中に水や食料を手に入れるあてがない</p>	<p>3 歩きにくい靴を履いている</p>	<p>4 防寒・防水具の備えがない(雨・雪の場合)</p>	<p>5 心臓病、高血圧などの持病がある</p>
---------------------------------------	------------------------------	-----------------------	-------------------------------	--------------------------

そこにとどまる勇気も大切です

帰宅する場合、帰路の安全性が最重要です。外出中大きな揺れに襲われると、公共交通機関がストップし、自家用車の運行も制限されるため、帰宅が困難になります。移動手段は原則、徒歩か自転車のみ。二次災害や転倒事故の危険性を考えれば、安全が確保されるまでは極力「その場にとどまる」ことが重要です。

いつ、どこへ避難する?

地震発生後は、家屋の倒壊から身を守るため、原則「屋外」へ避難します。



避難所生活になったら

- 自主防災組織や避難者が中心に運営
- 住民が中心になって運営
- ルールを守りましょう
- 助け合って、高齢者・障がい者・妊婦に心遣いを

大地震の経験は、それだけで大きな不安やストレスの原因になります。慣れない集団生活を強いられる避難所の場合、さらに肉体的・精神的負担からトラブルも起こりがち。共助の精神が乗り越える力になります。

病気やケガをしたら

震度6弱以上の地震で一般外来診療は休診になり「医療救護所」「災害時後方支援病院」が設置されます。

- 医療救護所 設置予定箇所: 連尺・城南・大門・矢作東・矢作北・矢作西・矢作南・北野・六ツ美北部・六ツ美南部 (市内10カ所の小学校に設置)
- 災害時後方支援病院: 北斗病院・岡崎南病院・宇野病院・三嶋内科病院・富田病院

帰宅困難者になってしまったときの10か条

安全な場所にとどまることを考える

1. 落ち着いて、まずは状況確認
2. 携帯ラジオは必需品
3. 作っておくべし! 帰宅地図
4. 職場・学校などのロッカーにスニーカー
5. 職場・学校などに非常食を備蓄しておく
6. 事前に家族で話し合い(連絡手段、避難ルート)
7. 災害用伝言ダイヤル(171)で安否確認
8. 自宅までの道順を知っておく
9. 声をかけあい、助け合おう
10. 冷暖の装備(タオルやカイロ)も準備して

南海トラフ地震に関連する情報(臨時)が発表されたら帰宅を検討

帰宅が難しくなったら

愛知県では、遠距離を歩いて帰宅する人をサポートするために、コンビニエンスストアやさまざまな商業施設と「徒歩帰宅者の支援ステーションに関する協定」を締結しています。水やトイレ、道路情報などに困ったら、支援ステーションステッカーが貼られている店舗を利用しましょう。



ルートを選ぶ前に

愛知県では、道路の安全性に配慮し、基幹的ルートとして推奨する道路を掲載した「基幹的徒歩帰宅支援ルートマップ」を作成しています。本市ならびに各市町村では、さらに必要な幹線道路を加え、帰宅ルートと支援ステーション等を掲載した地図を作成し、駅や支援ステーションに配備しています。

